

令和7年度 浜松市立伎倍小学校 学校評価報告書

1 自己評価結果及び考察

自己評価結果及び改善方策
別紙のとおり

2 学校関係者評価

2月17日（火）に開催した学校運営協議会にて、自己評価結果、考察及び改善方法について学校運営協議会委員に報告。委員からは以下のような意見をいただいた。

○学校評価について

- ・ **諦めやすい児童への指導**：子どもがすぐに諦めてしまう現状に対し、「辞書で調べる」「ノートを見返す」といった具体的な方法論を教える必要があるのではないか。
- ・ **個別最適な目標設定と教員の負担**：「一人一人が適切な目標設定をする」という方針は、教員が個別に進捗を確認する必要があり、負担が増大するのではないか。
- ・ **家庭との連携**：学校の目標を家庭でどうフォローするかが重要であり、グランドデザインの家庭への浸透が課題である。個人面談などで目標を共有する仕組みや、具体的な協力内容を伝える機会が必要ではないか。
- ・ **既存システムの課題**：「書き取りをパスするチケット」のような仕組みが、「ここまでやればいい」という限界を子供に意識させてしまうのではないか。

○生徒指導報告書について

- ・ 「命について考える日」が年に1回なのはなぜか。月1回のアンケートと連動させるなど、頻度を増やすとよいのではないか。
- ・ アンケートはいじめられている本人からの申告か、それとも周囲からの情報も含まれるか。
- ・ 児童が、「(問題が)大きくなるのも嫌だし、まだ我慢できるし、本当に嫌だったらちゃんと言えから大丈夫」と言って学校に直接訴えるのをためらう場合も考えられる。このようなアンケートだけでは拾えないと思うが、学校の対応について知りたい。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- ・ 目標設定や進捗状況の確認は負担もあるが、個に応じた指導が子供の学力、生活力の向上につながるため、家庭との連携方法を探りながら効率的な方法を開発していく。
- ・ 命に関する教育は「命について考える日」だけでなく、道徳の授業などを通じて、今後も様々な場面で取り上げ指導していく。
- ・ 現在の生活アンケートに、「友達が嫌なことを言われたりされたりしているのを見たことがありますか」といった、周囲の状況を問う設問があり、そのような回答があった場合は、教員が個別に聞き取りをしている。また、浜松市いじめアンケートを年に2回行っている。そのため、今後も、他人の目を気にせず答えられる環境を整備し、多角的な情報収集を継続的に進めていく。